

奇異雜談集



特別
~ 13
3255



うらみあつたりとて後二人も書はなぐくしつゝやせ
めとほりつゝはなしつゝせしつゝは血のた
らふはあつたりとて後二人も書はなぐくしつゝやせ
てゆいゝもせせのゆなよと死骸ともの日華
をまふたり中流とて十日日つゝらりら
の草とて若光寺とてんあつたりとて向
るとの門方とてゆめとてやとてゆとてゆとて
をゆとてゆとてゆとてゆとてゆとてゆとて
死まはつゝゆとてゆとてゆとてゆとてゆとて
ふ肉のつゝ十日日つゝり島山方とてゆと
の道ゆとてゆとてゆとてゆとてゆとてゆとて

いしゆゆとてゆとてゆとてゆとてゆとてゆとて
幸とてゆとてゆとてゆとてゆとてゆとてゆとて
甲の門方とてゆとてゆとてゆとてゆとてゆとて
ふゆとてゆとてゆとてゆとてゆとてゆとてゆとて
まゆとてゆとてゆとてゆとてゆとてゆとてゆとて
向のゆとてゆとてゆとてゆとてゆとてゆとてゆとて
とてゆとてゆとてゆとてゆとてゆとてゆとてゆとて
よとてゆとてゆとてゆとてゆとてゆとてゆとてゆとて
とてゆとてゆとてゆとてゆとてゆとてゆとてゆとて
うとてゆとてゆとてゆとてゆとてゆとてゆとてゆとて
用あつたりとてゆとてゆとてゆとてゆとてゆとてゆとて



はやくしつちのちうへへはまもをかくはひたれく
あひかひしつちのちうへへはまもをかくはひたれく
はやくしつちのちうへへはまもをかくはひたれく
あひかひしつちのちうへへはまもをかくはひたれく
はやくしつちのちうへへはまもをかくはひたれく
あひかひしつちのちうへへはまもをかくはひたれく
はやくしつちのちうへへはまもをかくはひたれく
あひかひしつちのちうへへはまもをかくはひたれく
はやくしつちのちうへへはまもをかくはひたれく
あひかひしつちのちうへへはまもをかくはひたれく

あつてもゆづりぢうぢうやんがたれんかあして
ぶゆづぬ旅の神あをわくどづつと東中とあ
らう神あをくづら一の紋うくづらもあは
ゆづの十徳もあをくづらゆづらもあは
十人目あかりゆづそあのし死まへ一室といや
せむ内方そのり心屋中法の傍にれゆづら
く本もあは十徳の神のされまあらうづらゆづら
あは内方あはる内方とりてみくまはる
あは十徳の十徳をくづら生害の時十徳の神れ
あは十徳の十徳をくづら生害の時十徳の神れ
あは十徳の十徳をくづら生害の時十徳の神れ

十徳の十徳

えんく 然中一めしほほーを浴こころいふ 十箇め
ていづろ内方からのこれと神めあてこもれ けうくあ
わさくさこのよこれる 舞のされからまて 徳あふ
かりらまへくめさくまへくめされくさひよも 徳あふ
ていぞその目と今日うぐ 十一日本かりららふこめあせら
まじいこのま三七日 他者よーはかどひきまへこめ 十一日
目よありい 夜されなまごうくぬ 灯とわあて 金とは
て 茶は湯とまらりあつてのいこく 神のまへよーら
よめくゆさりののちらよとらば 口とてあこよめよ
らりららわとけりまをさと 湯えいへ 湯さうりあれら
よめーの糸れりらまへこまへこまへの 湯さうりまへ
て

あつてーまらりての糸りてまをさと 湯えいへ 湯さうりまへ
らあれく 抽とまらりての糸りてまをさと 湯えいへ 湯さうりまへ
いこく 徳中一めしほほーを浴こころいふ 十箇め
まのへ 命とまらりての糸りてまをさと 湯えいへ 湯さうりまへ
糸のあつてまらりての糸りてまをさと 湯えいへ 湯さうりまへ
こいもも ねとまらりての糸りてまをさと 湯えいへ 湯さうりまへ
のゆさるら 舞くもまらりての糸りてまをさと 湯えいへ 湯さうりまへ
取まこ ちとまらりての糸りてまをさと 湯えいへ 湯さうりまへ
あつてーとまらりての糸りてまをさと 湯えいへ 湯さうりまへ
の本とまらりての糸りてまをさと 湯えいへ 湯さうりまへ
ららあつてまらりての糸りてまをさと 湯えいへ 湯さうりまへ

らんがうつあらんや。なるとくもあつてこのふいぬ
ゆるいといとら。長悦大悟して礼おまつして
ぬきのごうらゐりの中の一悟り。相向もそのい
くづ海の大と一頌を宣ふあんのされを。お高解
して実を。因身と地水火風空乃入蔵。りにはい
して実を。因身と地水火風空乃入蔵。りにはい
地お現し。くはるこれ異法あり。異法の性もつて。異法
の異相と生い。異法の氣もさる。異法のにお地持多
ふかり。夏と花々目よ。ひして。持たて。雷とよ。ひして長
それ目よ。ひして。目よ。年あ。ひして。雷とよ。ひして。長
異法の氣。つこと。ある。り。異法の復もあ。り。

涅槃經卷第三十二

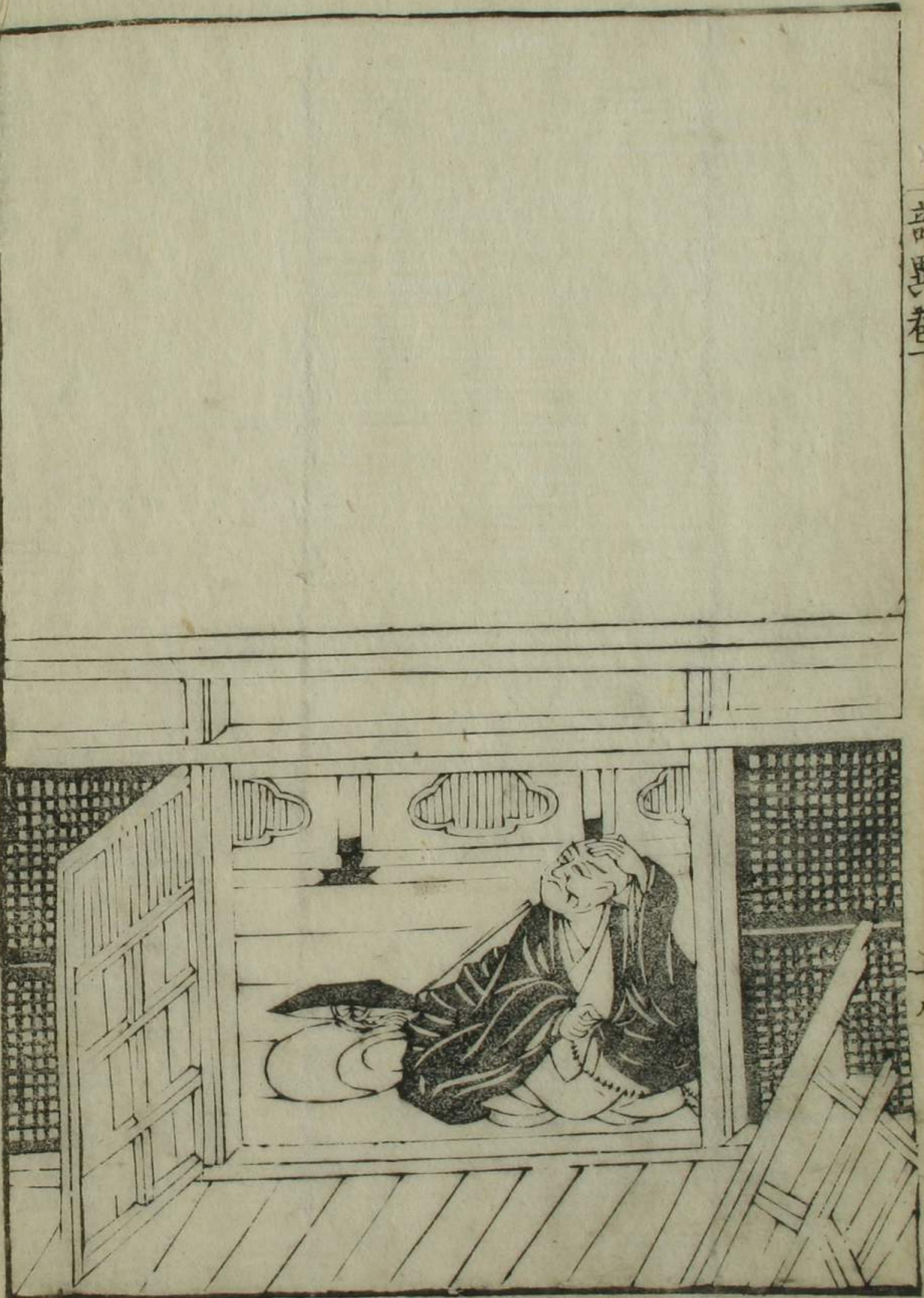
らんがうのりて。ふ其の佛性なり。ゆゑの巻い。い
如來常位元有。受易。一切衆生。悉有佛性。とら。
七十二偈と持と。ふあ。目と一偈と。七十二偈と。ふ
り。一年の目。般。り。び。先立。去。り。して。一偈くよ
多物持。多と。ふあり。二月乃。身。三偈。六日の。るに。驚
る。ん。と。一。あり。九月の。身。三偈。六日。れ。る。夜
あ。よ。入。と。始。と。ふ。り。は。り。目。に。は。り。七
二偈。多物。持。多と。ふ。中。中。に。出。二。衆。信。の。身
あ。れ。ち。も。ひ。さ。り。移。り。ひ。さ。り。七。十。二。偈。入
て。は。り。山。の。華。れ。あ。り。と。は。り。と。世。俗。も。これ
し。あ。り。は。あ。り。と。は。り。と。は。り。と。は。り。と。は。り。と。

くぐり物も飯も入くぐりまき入るも棚も
 と四方よりして物とくせくみせしん
 若めく飯をみとの口よとけつぐく
 ぐ飯とのつ入ぬちちちえぐ
 下をほねの人なり皮膚さく交めして
 らどやとびゆわゆひはち美交めして
 うかりいやく花色車とほくほく
 うぞれどまらにちららみとせら
 一まぐりこれ花のめいとして
 みちしわらうしてさげりてのう
 日帰ともさうしてさくくうの
 とみせし

知りくはま婦とかりい
 よくはは結納のさめし
 とあつりてさぶとら

④ 古堂の天井よ女と磔かうもと

わぶ人さうしてい
 わらに山登とさ
 んめりたれさ
 よ古堂一室わり
 一今とわね人
 わしんとち
 堂よのや



一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

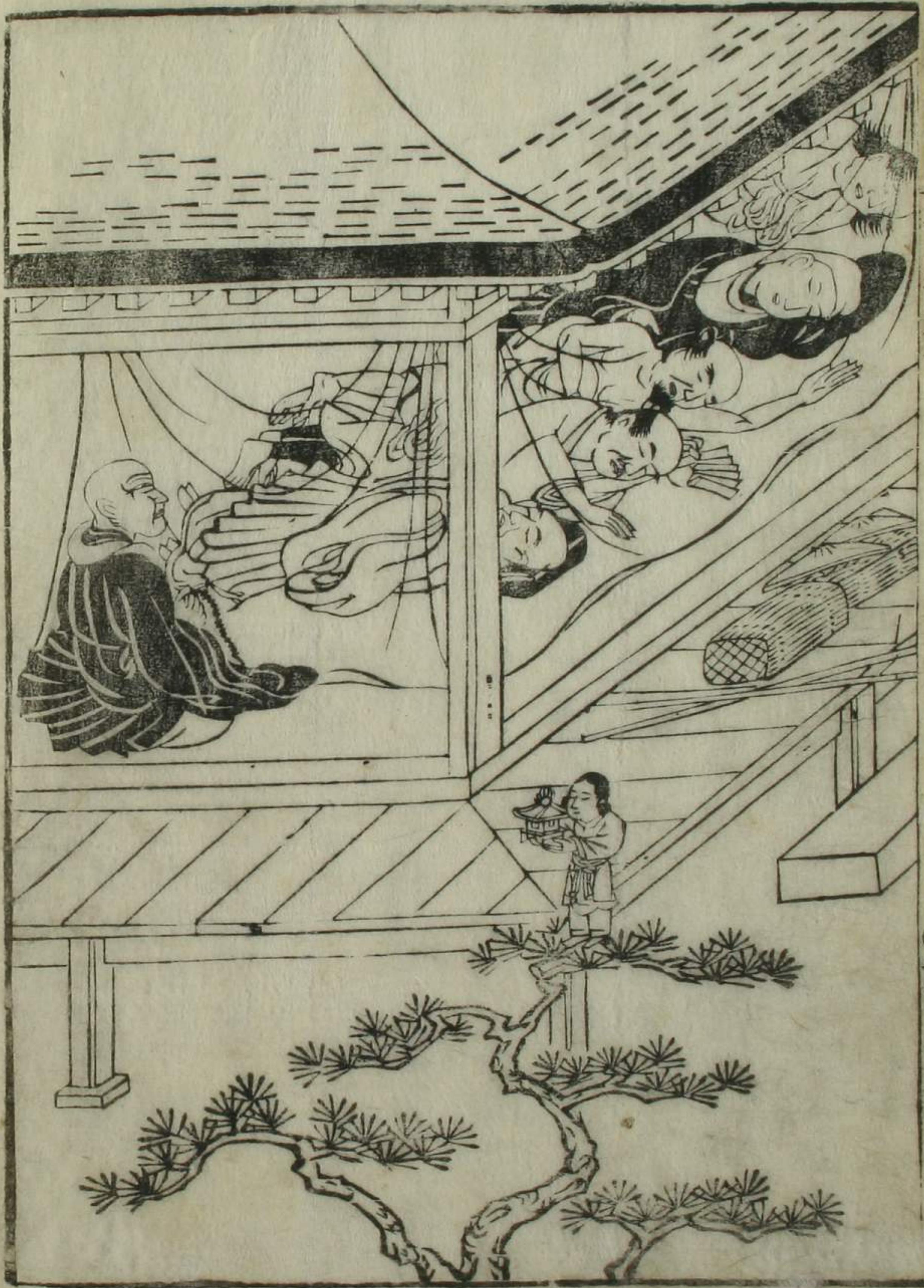
ぐんごうめくふやうたみくめくはとてふまじは
 とらひとよゆくぢひとふまじひとらんのか
 らづたよりいもいりては海にひてあつたり
 みあく門よりよあつてもつりぢり
 遊十町よりぢくに海にらとれたゆいよとらんや
 といふ結とともそあつぢあけくみまはぢよはみ
 りまゆひくこれらてん井のあかりはら筋ありとさ
 らうらなれま。ころあつたばやう若にあげてた
 らびらびとていふらつらつらとわねと入ふ
 やらと外ま一定けり。傑よもたがとめとらん
 あもららたが男とらんてし。筋とよりて集むりわ

と海いふあつてとらんてんやうのくめくゆんた
 といふやくぢかぢふりのありとて

(め) ぬせいのぢ懐り中に出の火の傍れびひ

一とあしよ 井 灯 打 事

丹後乃村中に津立の道場とよふ時宗寺あり
 そのと人を海に流して福力の人をして道をせんこ也
 兵國のこれとらんまももつわり。世よ人ぬせ
 片の文珠とらんぐらきし。毎月よ三度らんもつ
 やしとねあもわよとらんてん。結せと。標名合にてあ
 け海燈とよげとらんてん。結せとい。橋立のこれと
 二下づりの中にひめとらん一はつてとあわり。是とらん



してしやうのめがこいもさうれをばさるなり
 きの会ともれはやうかぶもめくは
 とくもあやもさうかぶとあせしてさ
 のさうらめくあはまうさその比身なを人
 あらむ因りよあはまうかぶたれ道のいさ
 してしやうのめがこいもさうれをばさるなり
 きの会ともれはやうかぶもめくは
 とくもあやもさうかぶとあせしてさ
 のさうらめくあはまうさその比身なを人
 あらむ因りよあはまうかぶたれ道のいさ
 してしやうのめがこいもさうれをばさるなり
 きの会ともれはやうかぶもめくは
 とくもあやもさうかぶとあせしてさ
 のさうらめくあはまうさその比身なを人
 あらむ因りよあはまうかぶたれ道のいさ

江戸
 巻二

るしんぶせん坊楼二佑也男女くゑのよらな
てそくわはちんぼーやしくさるふ坊楼と一
りりちて先くもせんきれなりちりちり文
殊堂奥地やふゆざさし人ちんぐり坊楼なり
ひののあしちんぐり

⑥ 佐助の女まに後中酒との先の時位牌
の志魂に唱念能と現して大英の焼し

あゆみのさくもんよしく。田舎のまらるに人乃ち也
ぶちんぐり。家のまじり。唱念一人やちんぐり
ていん。あゆさしりて。女と喫せよとあり。あゆさ
し。あゆさしりて。あゆさしりて。あゆさしりて。あゆさしりて。

ぬ唱念さくもんよしく。田舎のまらるに人乃ち也
ぶちんぐり。家のまじり。唱念一人やちんぐり
ていん。あゆさしりて。女と喫せよとあり。あゆさ
し。あゆさしりて。あゆさしりて。あゆさしりて。あゆさしりて。

奇異雜談集卷第二

目錄



①

戸津坂本めく女人傍と遊てやうとよ

②

乳着乃里胡瓜堂由来乃り

③

越中にて由せに肉婦大地よなりて

④

高野の熊治火とりのく地顔よとれ

高の部よ庵つぐはし奉

⑥ 伊勢の備前小傍園奥の事

⑥ 獅み谷も鬼みと聲も

⑦ 河列の三場小者とうらにのれ代は現れま

并山崎の人下人とされ
伊勢の後箱代り

〜〜事

奇異雜談集卷第二

① 津坂本ゆく女人傍と遊したる津田の

橋よみとある地よあり事

ある人報復りしく女人のちりしんからり流よ

地よたりし事。まれあさり〜〜〜。も〜〜〜。曹

洞宗乃り〜地の傍〜〜十のまらりな傍が坂平れとば

か〜〜りて一交と〜〜法談とのよ春山のうんせいあ

子〜〜よ〜〜もんごにわ〜〜。小庵〜〜。奇

〜〜地〜〜ら〜〜。婦人一人〜

〜〜ちん〜〜。二十のまらりあり。毎日徳

乃り〜。二度〜。内〜。入ら〜

しまむらびとてこり。えぐりかきわたりて人
 られとゆふと倍こり。さかしく先いそくはうせ
 むんとせれとて婦人移りてはるはるせり。たす
 とえとあふ時ぬ人あつてはるはるせり。たす
 ひて。いそんじとてはる中し。先く。門とあく。一
 町移りて。その婦人いかりせり。てはるはる
 くと。とてやんて。月流る。門とあく。婦人
 しまむら門とあく。うらうこと。たす。二町。南
 の移りて。婦人そのまう。て。門とあく。南
 のゆりの。金剛。金剛。やがれて。て。ありて。



言昇巻二

飯所をくじ七日の朝夕は布衣のやうにあらせり
と西坊へゆくはむりして朝の御人に任せたるも
よりついでとてしそふしとてしとてしとてし
その翌日のあはれしとてしとてしとてしとてし
と戸内婦人ていでとてしとてしとてしとてし
あつぎの日のあつぎとてしとてしとてしとてし
の目くらめしとてしとてしとてしとてしとてし
海本礼盤おとめとてしとてしとてしとてしとてし
が一人小者一人とてしとてしとてしとてしとてし
くちのゆとりとてしとてしとてしとてしとてし
海とてしとてしとてしとてしとてしとてしとてし

いしゆらゆとてしとてしとてしとてしとてし
明とてしとてしとてしとてしとてしとてし
一色とてしとてしとてしとてしとてしとてし
婦の事とてしとてしとてしとてしとてしとてし
いととてしとてしとてしとてしとてしとてし
乃にあらとてしとてしとてしとてしとてしとてし
はくととてしとてしとてしとてしとてしとてし
とてしとてしとてしとてしとてしとてしとてし
いととてしとてしとてしとてしとてしとてしとてし
いととてしとてしとてしとてしとてしとてしとてし
いととてしとてしとてしとてしとてしとてしとてし
いととてしとてしとてしとてしとてしとてしとてし
いととてしとてしとてしとてしとてしとてしとてし



高麗卷三

五

何れも海もあり。内婦も人少く死にぬの麻呂
し。あつたうなり。幸に主君の御いよむ。あつた
あ。幸に主君の御いよむ。あつた。あつた。あつた。
あ。幸に主君の御いよむ。あつた。あつた。あつた。
あ。幸に主君の御いよむ。あつた。あつた。あつた。
あ。幸に主君の御いよむ。あつた。あつた。あつた。
あ。幸に主君の御いよむ。あつた。あつた。あつた。
あ。幸に主君の御いよむ。あつた。あつた。あつた。
あ。幸に主君の御いよむ。あつた。あつた。あつた。
あ。幸に主君の御いよむ。あつた。あつた。あつた。
あ。幸に主君の御いよむ。あつた。あつた。あつた。

張卷の天井よりあがりて板のうらとあけてかきとみま
む。このまじりやうをわたりて。あつた。あつた。あつた。
あ。幸に主君の御いよむ。あつた。あつた。あつた。
あ。幸に主君の御いよむ。あつた。あつた。あつた。
あ。幸に主君の御いよむ。あつた。あつた。あつた。
あ。幸に主君の御いよむ。あつた。あつた。あつた。
あ。幸に主君の御いよむ。あつた。あつた。あつた。
あ。幸に主君の御いよむ。あつた。あつた。あつた。
あ。幸に主君の御いよむ。あつた。あつた。あつた。
あ。幸に主君の御いよむ。あつた。あつた。あつた。
あ。幸に主君の御いよむ。あつた。あつた。あつた。

111

のうらと門よりみまは世巻のついでに代もやがり
して大地とこもりて身もつり。幸ふまにくらら
一た一あたり。ゆらそらもつり。地もつら
まあくありあつた。いもりてこれら。地下流
よりて水あり。つらま。ありあつた。いもりて
あつた。いもりて。あつた。いもりて。あつた。
らと放火しく地もつり。いもりて。あつた。
りもつり。いもりて。あつた。いもりて。あつた。
よ火とほつた。いもりて。あつた。いもりて。あつた。
あつた。いもりて。あつた。いもりて。あつた。
これら。大地。あつた。いもりて。あつた。

ゆらうは使よ大地とこもりて。あつた。いもりて。あつた。
あつた。いもりて。あつた。いもりて。あつた。
よあつた。いもりて。あつた。いもりて。あつた。

④ 多野の放火とりの地の類り点

これら。書の内容。あつた。いもりて。あつた。

わが人のさうもん。いもりて。あつた。いもりて。あつた。
織人のまあ。あつた。いもりて。あつた。いもりて。あつた。
いもりて。あつた。いもりて。あつた。いもりて。あつた。
あつた。いもりて。あつた。いもりて。あつた。いもりて。あつた。
あつた。いもりて。あつた。いもりて。あつた。いもりて。あつた。
あつた。いもりて。あつた。いもりて。あつた。いもりて。あつた。
あつた。いもりて。あつた。いもりて。あつた。いもりて。あつた。
あつた。いもりて。あつた。いもりて。あつた。いもりて。あつた。
あつた。いもりて。あつた。いもりて。あつた。いもりて。あつた。
あつた。いもりて。あつた。いもりて。あつた。いもりて。あつた。

此の
父の
母の
世の
中
の
子
を
も
つ
た
ら
し
き
事
は

いづれのののり三雲の唐山南のむら村のり村
中一の妙感寺あり六角殿文明年中に妙感寺に居候
と殿年一法侍のれかとはくして居たりやが父中村
豊前と家とはくして居たりやと云ふは云ふは云ふ
人ありと云ふは云ふは云ふは云ふは云ふは云ふは云ふ
あはれ三雲早細よ小者松原よよよよよよよよよよよ
とては云ふは云ふは云ふは云ふは云ふは云ふは云ふ
十人ありがれを云ふは云ふは云ふは云ふは云ふは云ふ
とては云ふは云ふは云ふは云ふは云ふは云ふは云ふ
おしとては云ふは云ふは云ふは云ふは云ふは云ふは云ふ
とては云ふは云ふは云ふは云ふは云ふは云ふは云ふ

いづれのののり三雲の唐山南のむら村のり村
中一の妙感寺あり六角殿文明年中に妙感寺に居候
と殿年一法侍のれかとはくして居たりやが父中村
豊前と家とはくして居たりやと云ふは云ふは云ふ
人ありと云ふは云ふは云ふは云ふは云ふは云ふは云ふ
あはれ三雲早細よ小者松原よよよよよよよよよよよ
とては云ふは云ふは云ふは云ふは云ふは云ふは云ふ
十人ありがれを云ふは云ふは云ふは云ふは云ふは云ふ
とては云ふは云ふは云ふは云ふは云ふは云ふは云ふ
おしとては云ふは云ふは云ふは云ふは云ふは云ふは云ふ
とては云ふは云ふは云ふは云ふは云ふは云ふは云ふ

まりあぢんの事として此座のぐんきんはつら
 ぶへくのぢんゆりいゆき一まじりばいとい
 てどの道代よひひりこしとあかたはもねよ
 りを座にお掛けお松あつ門よらておさり
 しを座にお掛けお松あつ門よらておさり
 ぬく之場さうりてあひり(引きよこし)の
 ぐんめくごらりてあひりよらりておれと
 一らりて入る中間とあひりつと入る之場
 かしはさういひの事お松あつ門よらてお
 きて門方よひびりゆきつとあひりつと
 うちておれとあひり今とあひりつとあひり



これくわばとみくぢうのひらひらうまうらうら
うらうら主人よんまねだま主人おぢうらめてはくく
めのおもひをけうり御後とらうらまはま。ままぶる
たり下人おぢうらとらうら。新物と
わうらなうら

奇異雜談集卷第二終

奇異雜談集卷第三

目錄

- ① 白蛇入様のとらうらもんとらうらなま
- ② 牛觸合し勝負とらうら。赤生とらうらま
- ③ 丹波の真乃郡に人と馬よあし賣し
- ④ 越中しと人うらうらうらに勝陀能の
新物とらうらま

みして残すつてまけぬ。浅百貫文あつて
そのししまけつて浅百貫文あつて
庭つとつてまけつて浅百貫文あつて
はつとつてまけつて浅百貫文あつて
らつとつてまけつて浅百貫文あつて
家つとつてまけつて浅百貫文あつて
此つとつてまけつて浅百貫文あつて
しつとつてまけつて浅百貫文あつて
何つとつてまけつて浅百貫文あつて
はつとつてまけつて浅百貫文あつて
引つとつてまけつて浅百貫文あつて

とつとつてまけつて浅百貫文あつて
のつとつてまけつて浅百貫文あつて
はつとつてまけつて浅百貫文あつて
あつとつてまけつて浅百貫文あつて
りつとつてまけつて浅百貫文あつて
瘦牛つとつてまけつて浅百貫文あつて
つとつてまけつて浅百貫文あつて
とつとつてまけつて浅百貫文あつて
瘦牛つとつてまけつて浅百貫文あつて
おつとつてまけつて浅百貫文あつて
頭つとつてまけつて浅百貫文あつて

と申して後園よめが終くと瘦平と仰げつても
て後園よめの此より入申すゆげとてあつく
く。やとぞちりりあしてうらまひある瘦平
とんでる御而と牛のぬいのさあておれがうし
いらすゝとんじまうまうくしとてあつくは
らんとくせいのこしてん救とていへるあけ
らつて申す引く入まり亭主よぶあらし腹
とてとつり目とぞよられたる杖を申すま
よえしていへる。今日の故にうあうあつてあ
細の向後よはがさうまがさうまの時よあ
の深家より守わりたれがさうまの守り候に
候に

面堂のやせうら傍なれとて細家とてあはし
候よ人なる浅とてあはしとてあはしとてあ
て活計とてあはしとてあはしとてあはし
。そのちやくせんは井にぬべぐつ毛のてあは
して死に傍をらうとてあはしとてあはし
やとてあはしとてあはしとてあはしとてあ
まのく脊乃も又あはしとてあはしとてあは
やせとてあはしとてあはしとてあはしとてあ
こまもてあはしとてあはしとてあはしとてあ
かりかり今日とてあはしとてあはしとてあ

わくよめくわごと垣のむらり心よのぞげどいもが
つくみこりさうまめくこのむらりさうり
わちてくみこり置のむらりむらりのよら一むわり
そのくり物のむらりよめくよら一むらり
ぬい飯と汁とよら湯り湯とむらり茶をみる
のびやてよめくやらゆら一よらむらりわら
くよめく茶二三寸よら一よらり茶を煮
ぬらりこれなよら湯を煮てよら一よら
くよめく椀よらりてよめく飯とゆらり倍人れ
よらこれ食とゆらりよらよらよらよら
よら食とゆらりよらよらよらよらよら

鏡よわらそののら風呂とゆらりては風呂
つりわらりよらゆらりよらゆらりよら
里傍のつらりよらゆらりよら東司ゆらり
よらこれわらりよらゆらりよらゆらり
みらぶよらゆらりよらゆらり風呂の産とゆらり
よらゆらりよらゆらり人よらゆらりよらゆらり
てがゆらりよらゆらり風呂とゆらりよらゆらり
よらゆらりよらゆらりよらゆらりよらゆらり
よらゆらりよらゆらりよらゆらりよらゆらり
よらゆらりよらゆらりよらゆらりよらゆらり
よらゆらりよらゆらりよらゆらりよらゆらり
よらゆらりよらゆらりよらゆらりよらゆらり

今一止むぐーしをせむとせむものあを火とわしとそれば
 何れい今一人をいほくといひしきしそめいぬがらに
 ちのこれトしりおしてうのよのりりしてとてし切
 かり聖目のちおごすはなしてとてうんのをうを
 ほつよとそれとちのいひく。世なりありすよとてい
 事ゆくとあしりしそ人救とていしてはよと
 向し人しれりうりてとていりり

右盡雲の雜談あり

④ 越中しそ人高にるぶよき勝陀舞后の奇
 物しそめとていりり

寶幢院の宗跡とていりり正道の傍七人同る

しておぼよとていりり越中よめわくとわりのあつ
 とりよれ中よとていりり門ありあつとわりのあつ
 時とて天よめりりいりりて天よめられたるえん長とてい
 りり二人。門ありわくとていりり。それとていりり。
 し門の中はりぬがていりり。人の老翁ありとていりり
 とみて。その中一人とていりり。母はよとていりり
 あり。男子ありとていりり。一語よとていりり。つら
 多くていりり。なりりていりり。れ中。わりのあつとていりり。
 えて。わりのあつとていりり。わりのあつとていりり。越中よとていりり。
 小地獄なりとていりり。わりのあつとていりり。わりのあつとていりり。
 ありり。わりのあつとていりり。わりのあつとていりり。わりのあつとていりり。

うとゞざらうしとらひきくくさび入るりそれ
しつこくも曲みしつこくまげく祈あれるる
老田節々節とあらうりりてちぬふんて
かたりあ流しりほして節とまげ入られぬぞとい
しもやこの物々のけよあしとらよとぞう
しとげむまいつくまふと節らちいぞんな利
節とけと純と純神のまぢあ節しとどざらう
とらざとどしとらうりややうしとまげら
ありはるはくくし入れよおらあとうあま
ましとまもとどあ流れくごときりおいらう
くもたらりてらもまを極どとんとしとあ

はくよおん樽とやうしとげく人の樽二三らう
とりあをたのよらうけくおみととまむ
わくり清を極とよも倍々念とよよおんとの
あれやとよまのあ物とら念念のまふのと
さし流風とらしとらつとらまあくしとら
まうまうまうとら女房のまらとあははしと
あ流とらとんよめつととそれよとらとん
正極よ二十ふとんを死とらまふとらとら
なりとらん女とらとら極とら極とらよあ
まらとらとら我一人流とらとらとらとら
うんとらとらまのいとらとらとらとらとら

我極くやくしき人にてはなれりといふに
風が吹く所へは物うしんとあるに
よひにやがゆひにやがゆひに
すしき人なりと申すに
よのつづきつづきつづきつづきつづき
らいつづきつづきつづきつづきつづき
そのころには
さゆき目と天目のくらやみと
あまのつづきつづきつづきつづきつづき

て物なれども
物なりと申すに
とて色死ぬべし
あまのつづきつづきつづきつづきつづき
て念仏と申すに
の身なりと申すに
仏のつづきつづきつづきつづきつづき
あまのつづきつづきつづきつづきつづき
くみなりと申すに
ひくと申すに
とてわたりと申すに



なまじく江よほまわく船りわづれんは物ありし
てしめぬくははくもまの黒入るはあまゆぞ
とゆふど船政のゆく入道難とらゆくひるの海
まこ。人とつなすもあも今日べしりて
くはくくくりて。か。ま。り。女。房。と。り。ん。と
してさつりおちるぬのい。う。な。れ。女。房。あ。は。ま。した
ごひ。り。の。黒。入。る。と。み。く。や。ら。ゆ。れ。ど。海。よ。と。び。入。る
ま。い。ん。と。ゆ。も。と。も。ん。ぐ。と。免。ろ。を。さ。ら。う。ま。り。
り。り。い。ま。ふ。中。なら。海。流。も。あ。ぢ。く。ら。は。ぬ。ま。と
と。い。海。流。と。し。ら。く。ら。ゆ。り。と。も。か。り。と。り。ま。り。な
ら。は。り。免。る。神。祇。の。と。が。あ。り。と。ま。り。と。あ。ま。り。の。あ

黒川老師の收藏で古馬本の巻尾
六の奇異雜誌集天文頃の古写本なり
佐々木の幕下中村豊前守の男某僧とありその編集して今傳は
印本に漏たり事五段上の馬本あり
文政己丑初夏
柳亭種彦記

青中朱書曲二子白お
曲二子の死書り所字の字
にカクしか侍柳十の装
死曲二子序中のもの也
かきかき何れらるる
内田氏

長

